

自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2017年8月

No. 70

～1冊の本が人生を変える～

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association (TAAA)



2017年8月の報告と予定

- 2月～8月 南アにて図書・学校菜園・サッカー支援活動など。図書研修会、有機農業研修会、農業塾。国内にて、英語の本などを収集、分類・再梱包作業
- 2月 JICA 日本から南ア TAAA 活動現地を訪問
- 3月 TAAA 代表、南アを訪問
- 7月 TAAA 南ア代表一時帰国・報告会
- 8月 TAAA 代表ほか、南アを訪問
- 9月 英語の本などを南アに発送

目次

- ・成果を上げる子どもたち、卒業生、地域の人たち（平林薫） 2
- ・南アフリカで TAAA のボランティア活動に参加して得たこと（津山家野） 6
- ・TAAA 報告会レポート（丸岡晶） 8
- ・7月の作業報告（高野千恵美） 9
- ・2016年活動決算報告書 10
- ・活動日誌 11
- ・寄付金や本などを下さった方々 12



高校の図書室でコンピューターを学ぶ図書委員会の生徒たち

成果を上げる子どもたち、卒業生、地域の人たち

～菜園・図書・パソコン教育～

TAAA 南ア事務所代表 平林 薫



◆農村づくりプロジェクト

農村塾を中心に有機農業

JICA 草の根技術協力事業“有機農業塾を拠点とした農村作り”は、開始からちょうど一年が過ぎたところで、活動は順調に進んでいる。事業開始当初は指導員3名で活動を行ってきたが、4月より4名に増員し、それぞれが担当を持ってしっかりと役割を果たしてくれている。新しいスタッフは第1回～第3回トレーニングコースの卒業生から募集し、多少の農業経験があり、コース受講中もとても積極的な参加が見られたノコシナティンゴボさんに決定した。彼は農業塾のあるコココロ地域出身・在住で、将来地域の有機農業の発展を担う若者として期待される。そして、先行事業の学校菜園活動の指導員だったシャリ・モコテリさんがトレーニングコースの講師として参加し、第4回コースで指導を行った。また、昨年度から引き続きポングムーサ・グメデさんは主に地域住民や子供たちへの指導とアドバイスに携わっている。農業塾の隣に実家があるムコリシ・ジユワラさんは、塾のセキュリティと管理を行っており、リソースセンター利用者へのサポートにも力を入れている。

農業塾ではこれまでに4回のトレーニングコースを開催し、計64名が有機農業の基礎的知識と技術を習得して卒業した。卒業生は家庭菜園を始めており、指導員が訪問して指導やアドバイスを行っている。また、卒業後に就職が決まったり、短大や専門学校に通い始めた若者もいる。トレーニングコースの受講が次のステップに進むためのきっかけや自信につながってくれとうれしい。今後、山間部地域の若者を対象としたトレーニングコースの開催や、基礎コースを修了した生徒を対象に養鶏、食品加工などを学ぶ上級コースの開催も予定している。

育つ若いリーダーたち

第3回トレーニングコース卒業生5名がグループを作り、共同菜園での活動を開始した。その後、前コースの卒業生3名も参加して8名で畑作りを行っている。敷地は女性メンバーの実家近くで、すぐ隣に年中枯れない川があり、畑作りには絶好の場所である。冬期の現在はホウレン草とキャベツ、タマネギを栽培し、春以降はジャガイモ、バターナッツ、ピーマン等、クリスマス需要に向けた作物の栽培を計画している。グループの活動が定着し、販売ができるようになったところで協同組合登録申請を予定している。また、第4回トレーニングコースには先行事業で学校ベースの地域グループとして畑作りを行ったメンバー2名が参加した。彼らは現在も継続して畑作りを行っており、コースでは改めて有機農業を基礎から学ぶことができ大変役立ったと話す。地域の若いリーダーとして彼らの今後の活躍が楽しみだ。

農業塾の敷地内には育苗所を設置し、苗はコース参加生徒が利用したり、地域住民に販売したりしている。また、トレーニング実習での畑作りだけでなく、農業塾として販売用の作物栽培も行い、今後はマーケティングに力を入れ、コース参加生徒に実例として紹介していきたいと考えている。敷地内では近隣の住民グループ(主にお母さん方)への有機農業研修も行い、メンバーが畑作りを始めた。また、先行事業の地域グループリーダーで、現在はトレーニングコースの指導員としても活躍するンギディ氏は、敷地内で新しい作物の栽培に挑戦したり、収穫物を近くのクリニックや年金支給時に販売することで、コース参加生徒や地域住民に前向きな影響を与えてくれている。

事業開始時より教室の改装、トレーニングコースの準備と開催等、慌ただしく半年が過ぎたが、活動が定着してきたところで、2月14日に農業塾開校式典を行った。



写真上下 農業塾開校式典

JICA からは東京国際センターの佐々木所長(当時)、事業担当の服部さん、JICA 南ア事務所から木野本所長(当時)、事業担当の水野さん(当時)、在南ア日本大使館から菱沼一等書記官が出席くださった。南ア側はコロコロ地域のチーフ、ンザマ氏、カウンターパート団体である州環境省のザマ氏と上司のメチェケ氏、州農業省グメデ氏、州教育省学区担当マネージャーのクル氏、エナレニ農場経営で有機農業専門家のヘイグ氏、トレーニングコース卒業生と在校生、地域住民も出席し、約 120 名の参加があった。佐々木所長、木野本所長のメッセージは参加者のモチベーションにつながり、菱沼書記官のズールー語でのスピーチには出席者から驚きの声が上がった。開校式は関係者が一堂に会して挨拶を交わす機会となり、事業の広報をすることで、地域の人たちに農業塾の存在と意義、活動内容について認識してもらうことができた。

農業塾はムタルメ小学校の 2 教室を借りて運営しているが、1 室は講義室で、もう 1 室は書籍やパソコン、プリンター等を配備したリソースセンターとなっている。これまで地域の人たちは ID ブックを一枚コピーするのに運賃をかけて町まで出かけていたため、リソースセンターでコピーやインターネットができることを大変喜んでいる。また、近隣の学生たちは放課後、静かで参考書もあるリソースセンターに自習をしにやってくる。休暇中に本を借りに来る小学生の姿も見られるようになった。前述の通り、育苗所で苗を買い求める住民もおり、農業塾は地域のガーデンセンター及びリソースセンターとして認識され、利用されるようになってきた。

州環境省の協力

カウンターパート団体である州環境省のザマ氏と同僚のントビさんからは常に力強いサポートをもらい、連絡を密に取り合いながら、協力して活動を進めている。トレーニングコース開催時には初日と卒業式に出席して生徒への激励と情報提供を行い、コース内で環境保全の授業も受け持ってくれている。ザマ氏は元教師で、演劇の勉強もした経験もあり、話がとても面白く引き込まれてしまう。自然保護の観点からの有機農業、土地固有の木や水問題、リサイクル活動まで幅広く指導してくれる。また、州環境省は経済開発省・観光省と一つの州政府組織となっていることから、卒業生や地域グループが協同組合を設立する際に経済開発省への申請もサポートしてもらえるという利点がある。もっと活動が進んだ際には有機農業と観光がつながって“村おこし”に発展する可能性も考えられる。州農業省の地域担当者であるギダさんには先行事業から引き続きお世話になっており、本事業でも卒業生グループの活動へのきめ細かなアドバイスももらっている。



州環境省の SEEP (学校環境教育プログラム) と共に対象地域の学校を巡回訪問し、菜園委員会活動と生徒の畑作りへのサポートを行っているが、先行事業の菜園活動で当時小学校高学年だった生徒が、高校に進んで自主的に畑作りに携わっている姿を見ると頼もしく感じる。6月24日には高校生を対象とした有機農業促進イベントを開催したが、特に遠隔地、山間部の学校の生徒の積極的な参加があった。活動を続けてきた生徒の中には職業として農業への期待も見られるようになり、将来地元で農業に従事したいと話す生徒もいた。

山間部トフェット地域にあるトゥルベケ小学校は、先行事業で全校生徒が畑作りに携わり、豊富な収穫もあって、活動は常にナンバー1だった。事業終了後も“畑パッションの 3 名”の 1 人ドラドラ校長のリーダーシップの下で確実に活動を続けてきた(他 2 名は前述のソギディ氏とヘイグ氏)。そして今年は 7 年生が自主的にグループを作り、苗や収穫物の販売を目指すという計画を立てた。メンバーでミーティングをし、活動記録を付けながら活動を進めており、指導員がサポート、アドバイスをを行っている。同地域内で最初の学校菜園事業が始まったのが 2010 年のワールドカップ直後だったので、当時彼らは 1 年生だった。それから継続して畑作りに携わり、いよいよ若いファーマーの誕生となった。

保育園から畑づくり



農作業を身につけるには、できるだけ早い時期から畑作りに親しむことが大切との認識から、地域内の保育園でも活動を開始した。子供たちにとって畑作りは土いじりをして遊んでいるような感覚のようで、種まきや水やりなど一連のプロセスも楽しそうに行っている。収穫物はランチに利用したり、子供に持たせたりできるので、先生方からも喜ばれている。また、お母さん方がグループを作り、園内の敷地を利用して活動しているケースもある。まず地域の人たちがそれぞれの状況に合わせて畑作りに取り組み、有機栽培の良さを実感することが第1歩だと考える。

山間部フォクソン地域グループは、リーダーのズマ氏と女性メンバーが中心となって活発に活動を進めており、指導員のボングム・サが頻繁にグループのミーティングに出席して、必要な指導、サポートを行っている。グループは有機菜園活動だけでなく、手作り工芸なども行い、すでに協同組合設立に向けた申請準備に入った。地域のシニアメンバーやお母さん方の活動を見て、若い人たちの参加も見られるようになった。活動記録や会計の記帳、耕作における重労働等、シニアメンバーの多いグループにとっても若い人たちの協力が不可欠である。地域内にはシャバ小学校、ベカマンデル高校があり、生徒も活動を行っていることから、今後地域全体で有機農業を盛り上げて行ってくれることが期待される。

対象地域では主に歴史的な理由から小規模農家、農村がほとんど存在しないため、子供や若者が地域内で農業を学ぶ場がなく、経験する機会も持てなかった。お母さんやおばあちゃんが夏期にメイズや豆を栽培するのをお手伝いする子供たちは多少見られるが(学校で活動に携わるのはこのような環境の生徒が多い)、育苗・移植・収穫・販売などの方法を体系的に学ぶことは難しい。地域は気候が温暖で土地も広く、家畜を飼う家庭も多いことから肥料も入手しやすいなど、有機農業には最適な環境である。地域の人たちが、そのような環境と自分たち自身の持つ可能性に気付き、活動を通して知識と技術を得て有機農業の有効性を認識し、自分たちの力で畑作りができるという自信を持って動き始めたところで“小規模農家”が誕生する。そしてそれぞれが着実に活動を進めて行くことで結果的に個人やグループの活動が繋がり“農村”が誕生するのだろう。きっとその日が来ると信じている。

◆学校図書活動の広がり

コンピューター技能教育

外務省 NGO 連携無償資金協力による“ウムズンベ自治区の学生の経済・社会参加に向けた学力向上と基礎技能習得”事業は2月末に1年次が終了、中高校へのICT(情報コミュニケーション技術)指導は学校から大変喜ばれ、理論と実地試験に合格した生徒には修了証を授与した。また、読書の奨励と感想文を書かせる等の活動により、生徒の英語力の向上も見られた。3月に開始となった2年次の事業では、30校を対象に指導員3名(モンドリ・チリザ、ントゴゾ・ミエンデ、ジンシェ・チャ)とアシスタント1名(ムジ・ムンガディ)の4名体制で活動を進めている。

前年度は中高校10校を対象にICT指導を行ったが、今年度は新たに高校2校、小学校(高学年)8校が参加し、20校を対象に指導を行っている。南アフリカでも都市部では小学校からICT教育が行われているが、設備や教材不足が続いている遠隔地域の学校では、高校でさえも全くコンピューターに触れたことのない生徒が多く、教育格差が顕著である。事業では、各対象校にノートパソコンとプリンターを一台ずつ配備し、図書活動の一環としてICT指導を行っている。生徒が将来社会に出る際に基礎的なコンピューター技能を持っていることは重要であることから、州教育省学区担当マネージャーを始め、各対象校の校長や教師たちからは、大変有効な活動と評価されている。TAAA初の女性スタッフであるジンシェさんはお母さんが高校の教師という家庭に育ち、国立KZN大学を卒業した才媛。彼女自身は教師志望ではないと言いつつも、小学校でのICT授業ではポスター制作を行う等、生徒の興味を引き出すプログラムを取り入れており、すでに豊禄を見せている。



コンテナを使った図書室

算数セットと本から学ぶ

また今年度から、小学校低学年を対象に“算数セット”を利用したバイリンガル算数指導のプログラムを開始した。

これまで日本から届いた算数セットは、対象小学校に少しずつ届けていたが、実際に利用する活動を取り入れていなかったため、教師が使いこなせる学校とそうでない学校が見られた。プログラムではまず対象となる学校でークラスの生徒の平均人数を確認し、できるだけ同じメーカーとパーツの算数セットを生徒数分配備した。対象校の時間割に合わせてスケジュールを組み、低学年担当指導員のモンドリさんが訪問して算数セットを使った授業を開始した。算数セットは図書室に保管し、学校全体で利用できるようにしている。

南アでは理数系科目が苦手な生徒が多いと言われており、実際、共通テストにおいて他のアフリカ諸国より成績が低いという結果も出ている。その要因の一つとして言語の問題が挙げられるだろう。現地語は単語が長いなど、理数系科目の指導には不向きな部分があることや、母語が現地語の生徒は小学校4年生から全教科が英語での授業になるため、それまでに英語を十分に習得していないと付いて行かれなくなるなどの問題がある。もちろん、地域住民の母語であるズールー語の習得が何よりも大切なのだが、将来社会に出た時に就職やコミュニケーションに困らないためにも、英語の習得は必要不可欠である。かつてアフリカンス語による授業に異議を唱えて学生が立ち上がった“ソウェト蜂起”のことを思うと、英語をこれほどまで重要視することに違和感を持たざるを得ないのだが、現代の南アの社会環境において英語力は生活力とも言えるような状況であるから、英語はあくまでもツールと位置付けて指導を行っている。とにかく、私たちの図書活動は言語に関係なく“本に親しみ、本から学び、読書を楽しむ”ことを子供たちに広く伝えて行く、これが基本なのだと思念頭に置いて活動を進めて行きたいと思っている。



ブックボックス

動もよりスムーズに行えるようになるだろう。また、現在コンテナ図書室1台で活動が行われているルトゥリ高校では生徒数が1,200名を超えており、ニーズへの対応が難しくなってきた。蔵書不足はブックボックスを多めに配備して対処しているが、何らかの形で図書室スペースの増強が望まれている。

各対象校の司書教師および図書委員会メンバーは様々な形で読書推進、英語力の強化を行っている。インプレロ小では4月の“ワールド・ブック・デー”を記念して読書推進のポスターを作成した。中にはTAAAでも使っている“本は人生を変える”や“教育は自己開発の偉大なる動力源である”という深いメッセージのポスターもあった。生徒の本への思いとアートのセンスが感じられる優秀な作品が多かった。シノクボンガ中ではスプリングコンテストを行い、英語習得に最も重要な英単語学習を促進した。この年代では何故かいつも女子生徒の方が男子生徒よりも優秀で、コンテストの結果も上位3名は女子生徒となった。

在南ア日本大使館草の根支援プログラムにより3教室の建設を行ったベキジズウェ小では、一教室に本棚を設置して学校図書室が完成した。当初、蔵書はTAAAから寄贈の本のみであったが、州教育省教育図書情報技術部門(ELITS)のンベレ氏より本が届き、また、学校の予算の中からも書籍を購入して蔵書の充実が見られるようになった。州教育省からは蔵書の整理・登録を行うインターンも派遣され、司書教師のサポートをしている。周辺地域には公共図書室がないことから、今後コミュニティー図書室としての利用も検討されている。

対象校の中で一番山奥にあるシボングジェケ高校の図書委員会メンバーで11年生のシチェロ君は、昨年度のICTプログラムに参加し、今年度は指導員のアシスタントとして他の生徒への指導も行っている。トゥルペケ小学校時代からとても良く本を読み、日本語にも興味を示していた彼は、将来コンピューター関係の分野に進みたいと話す。菜園活動も図書活動も、生徒に自分の興味のあることや将来の進路を考えるきっかけを与え、活動での経験が何らかの形で力になればと願っている。第2、第3のシチェロ君のような生徒の登場のためにも、学校での活動を定着させ、継続して行えるよう、委員会等のシステムの確立と引き継ぎ力をつけることに注力して行きたいと考えている。



算数セットを使って授業

図書室の充実

図書室として利用するスペースが十分でない学校への支援として、今年度はコンテナ図書室を2台配備した。一台は外務省N連事業からクワブザ小学校へ。同校はもともと物置だった狭いスペースを利用していたが、図書活動は大変活発に行われており、念願だったコンテナ図書室設置を大変喜んでいる。もう一台はひろしま祈りの石財団の支援でコロコロ地域のフンデドゥーゼ小学校へ。同校はここ数年で生徒数が増加し、これまで図書室として利用していた部屋を教室として使わなければならなくなってしまう。これで図書委員会活

南アフリカで TAAA のボランティア活動に参加して得たこと

津山 家野 (つやま かや)

私は、2017年2月に「トビタテ！留学 JAPAN 高校生」の国際ボランティアで、南アフリカに行き、3週間 TAAA の活動に参加しました。それはこれまで自分が知らなかった南アフリカの農村地域の現実を知り、TAAA のスタッフや学校の先生・生徒とかけがえのない時間を持つことができた経験でした。そして、日本と南アフリカのつながりを知り、その両方にルーツを持つ私には、本当にうれしいことでした。長年にわたり、たくさんの人の努力で築いてきた信頼関係の深さを感じました。



写真は、お母さんの津山直子さんと筆者

TAAA では、日本から届いたたくさんの本、サッカーボール、ユニフォームを整理し、学校に届けることをしました。TAAA スタッフのモンドリさんと毎日3~5校の学校を回り、「ブックボックス」を届け、図書室の様子を調べました。それらの学校は、自分が知っている日本やジョハネスバーグの学校のように設備が整っているわけではありませんが、先生と話したり、図書室をみて、子どもたちのために学校をよくしようとどれほどみんなががんばっているかがわかりました。その一方で本の数が足りないという問題もまだ大きいようでした。東京で浅見さんと一緒に受け取りに行ったアメリカンスクールの本も、無事に学校に届けられ、本だけでなく、本を大事にする両方の気持ちがつながっていることを感じました。本を読み自分を高めたいこうとする子どもたちもたくさんいて、自分が学ぶことも多くありました。



私は南アフリカで生まれ、10歳までジョハネスバーグに住んでいました。その後、日本に来て、東京の公立学校に通い、今年3月に高校を卒業しました。ジョハネスバーグと東京も大きな違いがありますが、ジョハネスバーグとTAAAの活動する地域は同じ国でも全く違って、アパルトヘイトがあったことの影響が残っていることや、勉強やスポーツをする環境の格差の深刻さを目の当たりにしたことのショックは大きかったです。

サッカープログラムでは、まず全部のボールに空気を入れ、ユニフォームを整理し、トレーニングの内容を考えました。サッカーは私も大好きで、ずっとプレーしてきたので、とても楽しみにしていたのですが、思っていた以上に楽しく充実した時間でした。子どもたちの話すのはズルー語なのでわからないこともありましたが、サッカーをやっている時は言葉の壁も感じず、あっという間に時間が過ぎていきました。サッカーをするような平らな場所がなく、でこぼこの斜面でサッカーをしている学校もありました。そして、そのように劣悪なコンディションでも、みんなが一生懸命練習し、うまいです。何より本当にサッカーが好きで、みんな生き生きとプレーしていました。他にスポーツ施設や道具もない地域で、サッカーの果たす役割は、日本で考えるよりずっと大きいです。ボールやユニフォームがまだまだ足りないのも、これからも日本で集めて、支援していければと思います。練習メニューを教えたり、一緒にプレーしたことは自分にとってとても貴重な経験でした。



また、ダーバンで、サンディルさんが活動している NGO で、「ストレートチルドレンではなくサーファーだ！」の活動にも参加し、サーフィンの大会の準備をしたり、子どもたちの練習を手伝ったりしました。そこでは、また全く違った子どもたちがおかれている現実に気づかされ、その子どもたちのための活動の大切さを知りました。

今回のボランティアを通して、平林さんやモンドリさん、他の TAAA のスタッフの方たち、サンディルさんや仲間の人たちが活動する姿をみて、一緒に行動し、いろいろなことを話せたことは、南アフリカのことを理解したり、これから自分がどう生きていくかを考える上でも、本当にたくさんのことを得ることができました。この機会を与えてもらったことに感謝し、南アフリカと日本の両方にルーツを持つ自分として、これからも自分のできることを考え、行動していきたいと思っています。日本では、AJF のアフリカンキッズクラブでも活動し、アフリカにルーツを持ち日本に住む子どもたちのためにイベントを行ったり、自分たちの気持ちを発信したりしています。その活動の中でも、今回のボランティアの経験について話し、他の子たちにも自分がルー

ツを持つ国に行くことを勧めたいと思います。その国の人々と過ごし、社会や生活を知ること、自分のもう一つのルーツを理解し、好きになり、自分にもっと自信が持てると思います。

右から平林薫、筆者。左はモンドリ(TAAA 南アスタッフ)



TAAA講演会レポート

～JICA 地球ひろばにて～

丸岡 晶

2017年7月15日(土)、市ヶ谷の「JICA地球ひろば」でTAAA講演会が開催されました。日差しが厳しい中、初めての方も含め、17名の方に参加いただきました。2時間という限られた時間の中、内容は、久我さん(代表)による挨拶、平林さん(南アフリカ事務所代表)による菜園支援活動事業の報告、津山カヤさんによる現地ボランティア報告、平林さんによる学校図書支援活動事業の報告、質疑応答と自己紹介という流れで行い、盛りだくさんでしたがアットホームな雰囲気での会となりました。



菜園支援活動事業は「JICA草の根技術協力事業」として実施していますが、現在のプロジェクトははからずもこの日でちょうど1年の節目を迎えました。2月には農業塾の開校式典を行い、講義室・図書室などからなるリソースセンターも立ち上がりました。また、トレーニングコースが開催され、今までに過去4回実施し、64名の卒業者を輩出しています。学校の生徒たちがこのコースを選択することで、自信をつけたり、就職など次のステップにつながっているようです。活動全般については、自主的に継続するところが出てくるとともに、保育園での活動など新たな取り組みという広がりも出てきています。

学校図書支援活動事業は「外務省 日本NGO連携無償資金協力」、「ひろしま・祈りの石国際協力交流財団」の支援を受けて30校にて実施しています。同じ本がたくさんある場合はまとめておき、学校訪問の際に持っていくことで、1人1冊ずつ貸し出し、一緒に授業を行うことが可能となっています。また、本に加えて算数セットも好評で、メーカー別にして配付しています。先生と使い方について検討するとともに、州教育省にもアドバイスをもらっています。さらに、ICTの支援も順調で、1校あたり約2台(1台は生徒用、もう1台は指導者用)のPCを設置して進めています。

平林さんの講演の間に行われた津山カヤさんの報告は大変コンパクトにまとまっており、平林さんとはまた異なる視点での感想・報告になっていました。図書についてはかなりの本が届けられている一方、整理整頓など運営には学校によって課題があること、サッカーを通じて言葉の壁を越えたつながりを持つことができ、運動する大切さも理解できることなど、示唆に富むものでした。



講演会は今後も毎年定期的開催していく予定です。ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。今回予定が合わなかった方も、次回お会いできることを楽しみにしております。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

7月の作業報告

高野 千恵美

7月23日(日)の作業は浦和学院高校から7名、三井住友系の企業から3名のボランティアに合わせ、野田さん・西村さん・高野と総勢13名で行いました。途中雨模様となり、蒸し暑い中の作業となりましたが、浦和学院の生徒さんには本の箱詰めを、三井住友系企業の皆さんには別室で「ぐりとぐら」「そらいろのたね」のズルー語翻訳版作成(絵本へのラベル貼り)をして頂きました。

No. 303 から No. 350 まで箱詰めしたところでレベル別に種分けされている分の本が無くなったので、残りの時間で生徒さん達にも1冊ずつ「そらいろのたね」のズルー語翻訳版を作ってもらい、終了後に参加者全員で記念撮影をしました。



(前列左 筆者)

また以前に浅見さんがインターナショナルスクールから引き取り、倉庫に保管してくださっていた英語の本がぎっしり詰まった段ボール箱を、次回レベル別種分け用として作業場の中に運び入れました。大友さん・加賀さん、山のように積み上げてある段ボールのレベル別種分けの作業を宜しくお願い致します。

来月の作業日は8月20日の予定です。

作業担当の丸岡さん、どうぞ宜しくお願い致します。



絵本にラベルを貼る企業ボランティアの方々と西村さん(右)



エアコンのない作業場で、浦和学院高校の生徒さんたち

2016年度(平成28年度)決算報告書 (2016年4月1日から2017年3月31日まで)

科 目		金 額		単位:円
I 経常収益				
1	受取会費			
	正会員受取会費	150,000		
	賛助会員受取会費	0	150,000	
2	受取寄附金			
	受取寄附金	991,149	991,149	
3	受取助成金等			
	受取公共助成金	19,322,482		
	受取民間助成金	0	19,322,482	
4	その他収益			
	受取利息	135		
	雑収入	1,040	1,175	
経常収益計(A)				20,464,806
II 経常費用				
1	事業費			
	(1)人件費			
	給料手当	7,282,220		
	臨時雇賃金	229,616		
	法定福利費	0		
	人件費計	7,511,836		
	(2)その他経費			
	プロジェクト物資購入費	4,298,349		
	研修費	142,095		
	制作費	0		
	プロジェクト物資輸送運搬諸経費	544,160		
	旅費交通費	292,393		
	車両諸経費・燃料費	1,997,885		
	車両修理代	3,718		
	視察訪問費	564,731		
	専門家派遣費	0		
	施設使用料	1,140		
	会議費	57,440		
	通信・運搬費	145,804		
	印刷・製本費	106,245		
	消耗品費	69,505		
	水道光熱費	9,724		
	地代家賃	242,506		
	支払手数料	0		
	保険料	353,590		
	雑費	30,967		
	その他経費計	8,860,252		
	事業費計		16,372,088	
2	管理費			
	(1)人件費			
	臨時雇賃・講師代	6,197		
	役員報酬	0		
	人件費計	6,197		
	(2)その他経費			
	会議費	7,184		
	旅費交通費	9,092		
	車両諸経費・燃料費	5,054		
	通信運搬費	41,825		
	印刷製本費	23,212		
	消耗品費	40,494		
	水道光熱費	0		
	支払手数料	124,230		
	地代家賃	80,836		
	事務所設備・修繕費	79,552		
	租税公課	20,800		
	雑費	13,031		
	その他経費計	445,310		
	管理費計		451,507	
	経常費用計(B)			16,823,595
	当期経常増減額(A-B)			3,641,211
III 経常外収益				
1	固定資産売却益		0	
	経常外収益計(C)			0
IV 経常外費用				
1	過年度損益修正損		0	
2	為替差損		50,889	
	経常外費用計(D)			50,889
	①当期正味財産増減額(A-B+C-D)			3,590,322
	②前期繰越正味財産額			8,254,189
	次期繰越正味財産額(①+②)			11,844,511

主な活動 (2017年1月16日～2017年7月15日)

〈日本国内〉

1月～7月 広報 丸岡晶
 1月～7月 本などの受け取りと作業場への搬入 北川健一
 1月中旬～下旬 住所名簿・ラベル変更 西村裕子
 1月下旬 ホームページ更新 久我祐子
 1月中 会報編集・校正 野田千香子 西村 久我
 1/28～2/4 会報69号発送準備作業 高野千恵美 野田
 1/23 本の分類作業 大友深雪 久我
 1/31 かざしてスマホ 勉強会 ソフトバンクにて 久我
 2月 南ア活動地域滞在 津山家野
 2/15 日本NGO連携無償資金協力贈与契約 締結 久我
 2/19 作業 丸岡 大友 鯨井幸一 野田 浅見克則 西村
 浦和学院高校より 高岡歩未 長谷川溜南 丸岡綾子
 川上祐樹 南場里穂 宮沢唯菜 中村愛乃音
 2/23 JICA ミーティング 久我
 2/28 会報の封入作業 野田さん、久我
 3/10～18 南アのプロジェクト視察訪問 久我
 3/19 作業 高野 大友 野田 浦和学院高校より 落合桜花
 吉田楓 関根美寿々 富塚友由梨佳 鈴木梓沙 山崎遥香
 川上
 4/3 N連外部監査訪問 経理申告 久我
 4/4 JICA ミーティング 久我
 4/14 本の種分け作業 大友 久我
 4/16 作業とミーティング 久我 浅見 野田 川上
 永瀬大輔
 4/20 JICA2016年度業務完了報告書提出 久我
 4/26 南ア大使館主催レセプション 久我
 5/10 N連完了報告書 提出 久我
 5/11 浦和税務署訪問 相談 久我
 5/20 アメリカンスクールインジャパンより本引き取り
 浅見 関根博 津山家野
 5/21 TAAA 理事会
 5/29 本の種分け作業 大友 加賀知子
 6/8 本の種分け作業 大友 久我
 6/18 作業 下谷房道 大友 丸岡 浅見 久我 野田 浦和
 学院より 小早川愛純 相澤香月
 午後、TAAA 総会
 6月下旬 報告会準備等 丸岡
 7/5 インターナショナルスクール住所ラベル作成 西村
 7/9 JICA 第1四半期報告書提出 久我
 7/11 プロジェクトマネージャーと会議 平林薫 久我
 7/13 本・算数セット依頼チラシ作成 西村 野田 高野
 7月中旬 会報70号封筒準備 高野
 7/15 TAAA 講演会 講師：平林薫 津山家野 JICA 地球
 ひろばにて 午後 懇親会

〈南アフリカ共和国〉 平林薫と南アのスタッフ

1/16～20 図書活動学校巡回訪問指導と司書教師へのアンケート、農業塾でスタッフ会議および敷地整備、州環境省ザマ氏と会議、備品の購入と配備。
 1/23～27 図書活動学校巡回訪問指導と本の寄贈、農業塾敷地整備、備品の購入と配備。
 1/30～23 図書活動学校巡回訪問指導、N連事業次年度スタッフ人選、農業塾第3回トレーニングコース準備、開校式準備。
 2/6～10 図書活動学校巡回訪問指導、農業塾第3回トレーニングコース開始、津山カヤ君がホームステイし、学校訪問、小学校でサッカーイベント開催等。
 2/13～17 JICA 東京より佐々木所長と服部さんが視察訪問、14日に農業塾開校式典、トレーニングコース授業。
 2/20～24 図書活動学校巡回訪問指導、地域住民菜園活動サポート、高校生徒サッカー交流。
 2/27～3/3 N連図書事業1年次終了と2年次開始、図書スタッフ会議、2日にプレトリア大学でのセミナー出席。
 3/6～10 図書活動学校巡回訪問指導、農業塾リソースセンターで蔵書の整理、備品の購入と配備。
 3/13～17 久我代表と農業塾でスタッフ会議、学校訪問、JICA プレトリアおよび在南ア日本大使館訪問、カウンターパートと会議
 3/20～24 図書活動学校巡回訪問指導、23日に高校の司書教師対象研修会開催、地域住民菜園活動サポート。
 3/27～31 図書活動学校巡回訪問指導、28日に農業塾第3回トレーニングコース卒業式、農業塾敷地整備。
 4/3～7 農業塾でスタッフ面接、新メンバーで会議、地域住民及び卒業生グループ菜園活動サポート、敷地整備と育苗。
 4/10～13 図書事業スタッフ会議、農業塾敷地整備と育苗、本の整理と学校別寄贈用箱作り。
 4/18～21 会計報告作成、農業塾でスタッフ・卒業生グループ・州農業省ギダさんと会議、本の整理と学校別寄贈用箱作り。
 4/24～28 26日にN連事業機材譲渡式と研修会開催、農業塾トレーニングコース準備
 5/2～5 図書活動学校巡回訪問指導、農業塾第4回トレーニングコース開催
 5/8～12 図書活動学校巡回訪問指導、ブックボックスの準備と貸出し、シノクボンガ中のスプリングコンテスト出席、10日に小学校司書教師対象研修会開催。
 5/15～19 図書活動学校巡回訪問指導、物品購入と配備、学校別寄贈用本の箱作りと配布。
 5/22～26 図書活動学校巡回訪問指導、高校司書教師および図書委員会生徒と会議、学校別寄贈用本の箱作りと配布。
 5/29～31 図書活動学校巡回訪問指導、31日に農業塾第4回トレーニングコース卒業式、高校司書教師と会議。
 6/12～15 図書活動学校巡回訪問指導、農業塾敷地整備、高校生対象イベント準備。
 6/19～24 図書活動学校巡回訪問指導、ムタルメ小で在南ア日本大使館草の根担当者と会議、会計事務処理、24日に農業塾で高校生対象イベント開催。
 6/26～30 図書活動学校巡回訪問指導、本の配布、農業塾でスタッフ会議、敷地整備。
 7月 平林、日本に一時帰国

☆ルイボスティのご紹介☆

ルイボスティ茶は南アの西ケープ州だけでとれる健康茶です。ノンカフェインなのでお休み前にも召し上がれます。

1パックでヤカン1杯、作れます。

1箱80パック2,000円です。(送料一律500円。5箱以上送料無料) お申込みは、TAAA事務局へ。